

いつもありがとうございます。

W28 青果発注書をお送り致しました。

御注文のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

・宮崎県 鹿児島県産 特別栽培 風土の恋するマロン 特売予定中止



誠に申し訳ございませんが、先週予定していた W28 の恋するマロン特売を、断念せざるを得無くなりました。

受注数がスタート前の、前年実績より大幅に上回り、

通常注文に対応させてもらうのにギリギリで、

午前中に入荷した分を午後から出荷をするような綱渡りになっています。

これではとても、特売に対応できる量が無いという事になりました。

予定を組んで頂いているお客さまには大変ご迷惑をおかけしますが、

何卒、御理解の上御容赦願えますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年は、宮崎の前産地として、鹿児島県指宿で風土さん指導の下産地開発いたしました。

結果は、5月末のトンネル作付け分は失敗に終わりましたが、

露地栽培の6月に入り、最初の週は未だ青臭さが抜けず断念しましたが、

2 週目取り扱い開始からは、画像のようにとっても美味しい南瓜に成長しました。
年々、恋するマロンに対する期待が膨らんでいることは認識していましたが、今年のスタートからの受注量は前年実績の 2 倍以上の御注文を頂き、
産地と共に梅雨の中、必死で遣り繰りしながら出荷しています。
宮崎県でも昨年の 150%の作付け、熊本県でも 150%作付けをしていますが、
この調子では、お盆明けの無限樹さんの恋するマロンに繋がらない懸念が出始めてもいます。
重ね重ね、申し訳ございません。
また、現在鹿児島県産と宮崎県産が同時に入荷されて来るため、納品は、どちらかの研鑽になります。
栽培責任者が株式会社風土で、栽培内容はまったく同じです。
商品ラベルは、それぞれの県産表示のラベルが入っています。

・北海道 特別栽培 大川さんの恋するマロン南瓜



北海道苫前の無限樹大川さんから、南瓜の生育報告第二弾が届きました！
27 日土曜日に、これまた打合せ第二弾を愛知県名古屋で行ってきました。

成長の具合の解説も頂きました。

比較対象がないので、若干分かりにくいかもしれませんが、
この画像では背が低く、葉が非常に大きく成長しています。
葉を大きくさせる必要性は、分かると思いますが、植物が成長するうえで、
必要不可欠な光合成効率を促します。

背を低くすることは、人間が高くジャンプするには、膝を曲げ力を溜めてから、
大きく飛び上がりますよね。かぼちゃにとっても同じだそうです。
これからの着果・肥大に向け、力を溜めていることが読み取れる画像でした。

非常に、非常に人気のある弊社の恋するマロン南瓜です。
想像を超える御注文数で、現在は鹿児島県指宿市、宮崎県都城市の二産地で対応の
予定をしています。
上記の北海道無限樹大川さんの南瓜は、8月お盆明け以降のスタート予定となっております。(有安海)

・奈良県五條市産益田さんのトウモロコシ(オオモノ)





こういう THE・清流という感じの場所から
更に 15 分くらい離れた標高 397mほどの畑で
気持ちよく栽培されています。
人も車もほとんど往来しないため空気も非常に澄んでいました。

益田さんのトウモロコシの品種はオオモノ。

通常 1 本の木につき 3~4 個の実がなりますが 1 個の実を大きくする為に他の実は全て
間引きます。

高いときの糖度は 20 度ほどで、益田さんは少なくとも 18 度以上を目標に毎回栽培され
ています。

箱入数は 2L サイズで 20 本入×2 箱、3L サイズは 15 本入×2 箱となります。

1 本あたりの量目は 2L : 370g~450g、3L : 450g~530g と品種名通り非常に大き
く、食べ応えのあるものとなっています。

7 月 25 日ごろまでのご案内となりますので宜しくお願い致します。(吉田麻衣)

・北海道 雨竜 Organic 土居さんのシンディースイート



暫くなりを潜めていた中玉です。

中玉は、大玉とミニに挟まれて、行き場を失っていた感がありますが、やはり、中玉のファンはおられるようです。

もちろん、何でもいいという訳では無いと思います。

Organic で味の濃い品種を、力のある農家が育てれば、

必ずご期待に応えられると思います。

糖度が高くて皮が硬いと、

何だか、???? な感じになってしまいますが、そのバランスが売りです。

残念ながら、バラでの御注文は賜れませんが、

是非、よろしくお願い申し上げます。

毎年人気で、受注量に対して不足気味です。

そこで、そもそも北海道のミディトマトの弊社に於ける元祖の『フルーツミディトマト』と併売になります。

・北海道産 栽培概要表示 野見山さんのカラフルミニトマト



全部で 32 色あるそうです。

残念ながら、すべてをハウスで見ることが出来ませんでした。

このカラフルミニトマトは、売れる、売れないは、パックの仕方で全然違うそうです。

なので、リスクはありますが産地パックで取り扱う事にしました。

どういう配色のパックが売れるのか分からないので、

まずは経験のある野見山さんのパック作りに学ぶことにしました。

夫婦で遣っていて、従業員さんも 5 名ほどおられました。

野見山さんは元々、海上保安庁の船乗りだったそうです。

奥さんと研修に参加した農家さんが、野見山さんを見込んで、そっくりそのまま事業を禅譲したそうです。

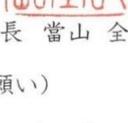
経営的には、楽勝のような帳簿でしたが、ふたを開けてみると実はそうではなく、苦勞をしたそうです。

でも、13 年目と言ったかな、堅実な経営で安定しているような印象を受けました。

海上保安庁の話ですが、今でも復帰要請が海上保安庁からあるそうです。

海上自衛隊だけではなく、海上保安庁まで今後の行く末を不安に思っているのでしょうか。
生活は掛かっていても命までは掛けなくて済む、農業の方が良いと思っておられるようでした。
応援したい農家さんがまた増えました。

・沖縄県産 パイナップルについての応援

	農流第 123 号
	石農農 330 号
	竹産第 303-1 号
	東農水第 191 号
	令和2年6月15日
(有)アルファ	
代表取締役 吉田 清一郎 殿	沖縄県知事 玉城 康裕
	石垣市長 中山 義隆
	竹富町長 西大舩 高旬
	東村長 當山 全伸
	   
	沖縄県産パイナップルの販売協力について(お願い)
	沖縄では梅雨が明け、いよいよ夏本番を迎える頃となりました。貴社におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、沖縄県の農畜林水産物の販売に対し格別のご高配を賜り深謝申し上げます。
	さて、ご存じのとおり、沖縄県は全国でほぼ唯一の国産パイナップルの産地であり、沖縄本島北部の東村と、八重山群島の石垣市及び竹富町(西表島)が県の拠点産地に認定されております。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による観光、外食、イベント、学校給食等の需要減少により、県内外において生食用パイナップルの販売が落ち込んでおり、県産パイナップルの最盛期を迎えるにあたり、大変憂慮しているところでございます。
	つきましては、貴社におかれましても、沖縄県産パイナップルの積極的な販売について特段のご配慮をお願い申し上げます。
	本来なら当方から要請に伺うべきところではありますが、感染症拡大防止の観点から、書面での依頼とさせていただきますことをご了承ください。

何とも申し上げようのない事態ですが、
御販売の協力を得られれば幸甚です。
北海道産のメロンも同様に今期は産地でダブつくことが、
目に見えるようになってきました。
いずれも同じ事態です。

『余ってるなら安く買えるだろう』との安易な考えもあると思いますが、
生産者、生産地をそのような視点で捉えることは、
自らを冒涇するに等しい考え方だと思います。

北海道のメロンで言えば、
この事態はもう少し早く分かっていたら作付けを減少させることも、
農家では出来たはずですが、ハウス栽培の計画がスタートしてしまってからでは、
遅くに失いました。
間に合ったのは露地栽培で、今年は殆どの農家が栽培を中止しています。
私どもの取り組み農家では無限樹さんは、例年通り作付けされます。
作付けされますが、『アルファーに100%任せる』との事です。
100%というのは、価格も含めて任せるとの事で、
どうしたものか考えどころです。

この国の経済制度において、販売数と単価はリンクしてしまいます。
最近、ようやく『応援』という言葉が登場してきました。
数年前に高知県津野町の若い人たちから、
『津野町再生』のプロジェクトを聞かされ、北海道の東武さんに応援を頼みました。
快く引き受けて頂き、現在も進行中です。
商品性の8割9割は価格だと考えています。
つまり、商品価値と価格の相関は常識的には乗り越えられることは無い、

と考えがちですが、今からの時代は、ここがポイントになるように思っています。

『 **地域の方に応援してもらえる店づくり** 』が、重要なテーマに成って来ていると思えてしまふのです。

資本主義の日本に於ける先覚者の渋沢栄一氏は、きっとこんなことを考え明治時代の起業をしたのではないかと想像しています。

このことは後 4～5 年するとハッキリ答えが出て来そうな気がしていて、それを見届けられれば引退してもいいかなと思っています。

・終了商品

鹿児島県産 JAS 地球畑新玉ねぎ
宮崎県産須川さんのパプリカ
宮崎県産特裁ミニトマト小鈴
ありがとうございました。

それでは、今週も御注文の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

有限会社アルファー

吉田清一郎